キャラクター名
金剛寺　エリザベス

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー バロール	ワークス	高校生	カヴァー	お嬢様
オプショナル		年齢	15	性別	女
覚醒	無知	衝動	嫌悪	初期侵食率	30 %
出自	名家の生まれ	経験	平凡	邂逅	恩人「テレーズ・ブルム」

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	1	0			3
感覚	1	0	0			1
精神	3	0	1			4
社会	2	0	2			4

HP	30
行動値	6
(非装備時)	6
戦闘移動	11
全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	4	
運転：			芸術：			知識：郷土史			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
手招く凍土		0				②③⑥。+8。空気中の水分を凍らせて味方への攻撃を反らし、氷の盾と鎧で防ぐ。
凍て空の窓		0				②③④。+10。空気中の分子振動を操作して攻撃のベクトルをエリザベスに向け、防ぐ。
クリスタルシールド		0	12			UGNに頼んで専用にカスタマイズしてもらいましたわ
凍星の加護						①②③⑥。+12。氷の盾と鎧は魔眼を取り込み黒く輝く。手招く凍土の強化版。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：要人への貸し	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
起源種（オリジナルレネゲイド）	P	N		
月喰赫耶（昇華不可）	P　安寧	N　不安		
霧島時雨（故人）	P　感服	N　恐怖		
犬山大声	P　信頼	N　弱者		
金剛寺武雄	P 幸福感	N　悔悟		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	16	残り財産P：	0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
魔人の盾	3	4	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	不壊の盾。ガード値+[Lv*10]。1シーンに1回。							
氷盾	3	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	不退の盾。ガード宣言時、ガード値を+[Lv*5]する。							
氷雪の守護	3	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	不屈の盾。ダメージを受ける直前に使用。ダメージを[Lv+1]D点減少させる。							
孤独の魔眼	2	4	オート	視界	★	自動	-	
効果：	通さずの盾。1シナリオに[Lv]回使用可。自身を対象に含む範囲攻撃の判定前に使用。対象を自分一人に変更する。							
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果：	許さずの盾。相手が判定を行う際に使用し、判定結果を自動失敗とする。1シナリオ1回。相手の動きを強制的にストップさせる。							
氷陣（炎陣）	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	見捨てずの盾。味方をカバーリング。１メインプロセスに一回。							
斥力障壁	1	2	オート	視界	単体	自動	-	
効果：	手が届かずとも。対象にダメージが適用される直前，予定ダメージを[1d10+Lv*3]減少させる。１Rに一回。							
凝結（融解）	1	2	オート	至近	単体	自動	-	
効果	力及ばずとも。同エンゲージ内の対象が攻撃を行ったときに宣言。対象の攻撃力を[Lv*3]点減少させる。１Rに一回。空気中の水分を一気に氷結させ、対象の力を妨害する。							
快適室温	★		メジャー	至近		自動		
効果：	一定の空間の室温を快適に。ついでに自分のお肌周りの保湿に使う。							
氷の理	★		メジャー	至近		自動		
効果：	手に触れた物体を極低温にして冷やす。							
効果：								
効果：								
効果：								

霧島時雨（故人）感服・恐怖□【固定】無理やりに突き付けられた命の選択。己の至らなさと、暴かれた本質を抉る様に、彼女の声が耳元でささやき続ける。
第三章
『守れない絶望をよぉく味わうと良いのだわ』
あの日、あの時。私は目の前のどうにもならない現実にさらされて。
何とかできたかもしれない。どうにもならなかった。
あともう少し手を伸ばせば。届くはずがない。
仕方がなかった。十分よくやった。君の判断は正しい。
『そう、誰を守り、誰を●●●●の……？』
天掛を選び、取手と犬山を「見捨てた」。
人の命を、己の都合で選んだことが。
「正しいなどと……どの口が、言えるのよ……」
もしも、本当に取り返しのつかないことになった時。
私は、その選択に、耐えられるのでしょうか。
162:56（成長）

第二章：この娘、ポンコツであった。
不測の事態から独り立ちを経験するも持ち前の器量で大体のことをそつなくこなしつつ、庶民の生活にも溶け込み始めている。しかし新たな進学先では世間ずれした性格と現在の状況からくる不安とが漏れ出、周囲への近寄りがたさに発展。気の置けない友人ができないことが悩みの種。護るものとして・イリーガルとしての先達であるソイルに憧れを、同校の先輩である神蔵に親しみを感じつつある。逆に、オーヴァードのプロとして行動する取手や天掛、犬山には不慣れで、価値観の違いを感じずにはいられない。失踪した母と祖父への憂慮も重なり、思春期ならではの（と言うには状況が特殊すぎるが）問題にぶつかっている。